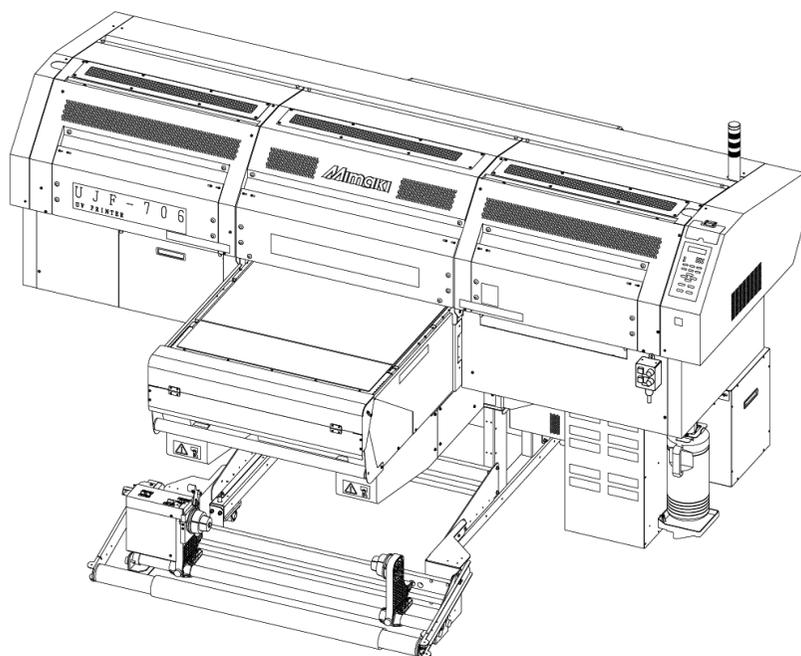


Mimaki

UV PRINTER
UJF-706

オプションロールユニット

取扱説明書



OPERATION MANUAL

目次

ご注意	iv
ご注意	iv
おねがい	iv
電波障害自主規制	iv
テレビ/ラジオの受信障害について	iv
はじめに	v
安全にお使いいただくために	vi
マーク表示について	vi
警告ラベルについて	viii

第1章 ご使用の前に

各部の名称とはたらきについて	1-2
プリンタ前面（巻取装置）	1-2
プリンタ背面（操出装置）	1-3
操作スイッチ	1-4

第2章 使い方

メディアをセットする	2-2
作図前の操作	2-10
データの作図	2-11
メディアのフィードとカット（作図後）	2-12
上手にお使いいただくために	2-15
テーブルのお手入れ	2-15
ヘッドメンテナンス	2-15
各種メディア使用時の注意	2-15
テーブル上の吸着穴のふさぎ方	2-15
ウェイトの使い方	2-16
UVランプの使い方	2-17
ミストファンの使い方	2-18
ロールメディア1プリントの使い方	2-19

第3章 お手入れ

除電バー	3-2
------------	-----

第4章 困ったときは

困ったときは	4-2
メディアにシワが発生する（印刷中）	4-2
メディアにシワが発生する（搬送中）	4-2
メディアがスキューする	4-4
メッセージを表示するトラブル	4-5
エラーメッセージ	4-5

第5章 付録

仕様	5-2
----------	-----

ご注意

株式会社ミマキエンジニアリングの保証規定に定めるものを除き、本製品の使用または使用不能から生ずるいかなる損害（逸失利益、間接損害、特別損害またはその他の金銭的損害を含み、これらに限定しない）に関して一切の責任を負わないものとします。

また、株式会社ミマキエンジニアリングに損害の可能性について知らされていた場合も同様とします。

一例として、本製品を使用したメディア等の損失や、作成された物によって生じた間接的な損失等の責任負担もしないものとします。

本装置を使用したことによる金銭上の損害および逸失利益、または第三者からのいかなる請求についても、当社は一切その責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。

おねがい

- この取扱説明書は、内容について十分注意しておりますが、万一ご不審な点などがありましたら、販売店または弊社営業所までご連絡ください。
- この取扱説明書は、改良のため予告なく変更する場合があります。

電波障害自主規制

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラス A 情報技術装置です。この装置を家庭で使用すると、電波妨害を引き起こすことがあります。

この場合は、使用者が適切な対策を講ずるよう要求されることがあります。

本装置の接続に於いて、当社指定のケーブルを使用しない場合は、VCCI ルールの限度を超えることが考えられます。必ず、当社指定のケーブルを使用してください。

テレビ/ラジオの受信障害について

本装置は、使用時に高周波が発生します。このため、本装置が不適切な条件下で設置または使用した場合、ラジオやテレビの受信障害を発生する可能性があります。したがって特殊なラジオ/テレビに対しては保証しておりません。

本装置がラジオ/テレビ受信の障害原因と認められましたら、本装置の電源を切り、ご確認ください。電源を切り受信障害が解消すれば、本製品が原因と考えられます。

次の手順のいずれか、またはいくつかを組み合わせることでお試しください。

- テレビやラジオのアンテナの向きを変え、受信障害の発生しない位置をさがしてください。
- この製品から離れた場所にテレビやラジオを設置してください。
- この製品とは別の電源供給路にあるコンセントにテレビやラジオを接続してください。

はじめに

この度は、UJF-706 オプションロールユニットをお買い上げいただき、誠にありがとうございます。

UJF-706 オプションロールユニットは、ロールメディアの安定した搬送を行うユニットです。ページ送り機能を使って、ロールメディア 1 本への連続印刷ができます。

また、ロールユニット機能をオフにすることにより、厚さ 100mm の印刷が可能になります。(オプションロールユニットを取り付けていない場合は、厚さ 150mm の印刷が可能です。)

本書では、UJF-706 にオプションロールユニットを取り付けてお使いになるときの、メディアのセット方法等を説明しています。

UJF-706 本体での印刷方法や各種設定については、UJF-706 本体の取扱説明書をご覧ください。

取扱説明書の最新版は、弊社ホームページからもダウンロードできます。

本書の内容を無断で転載することは禁止されています。

© 株式会社ミマキエンジニアリング

All Rights Reserved. Copyright

安全にお使いいただくために

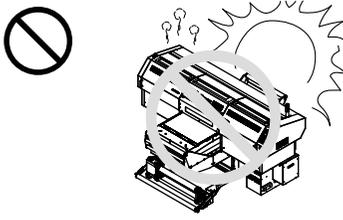
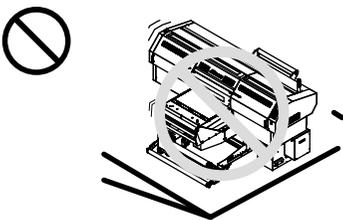
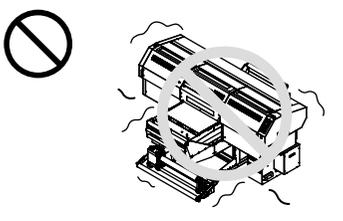
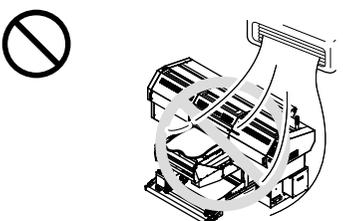
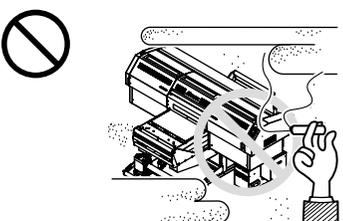
マーク表示について

本書では、マーク表示により操作上の注意内容を説明しています。注意内容により表示するマークは異なります。各マーク表示の持つ意味をご理解し、本装置を安全に正しくお使いください。

マーク表示の例

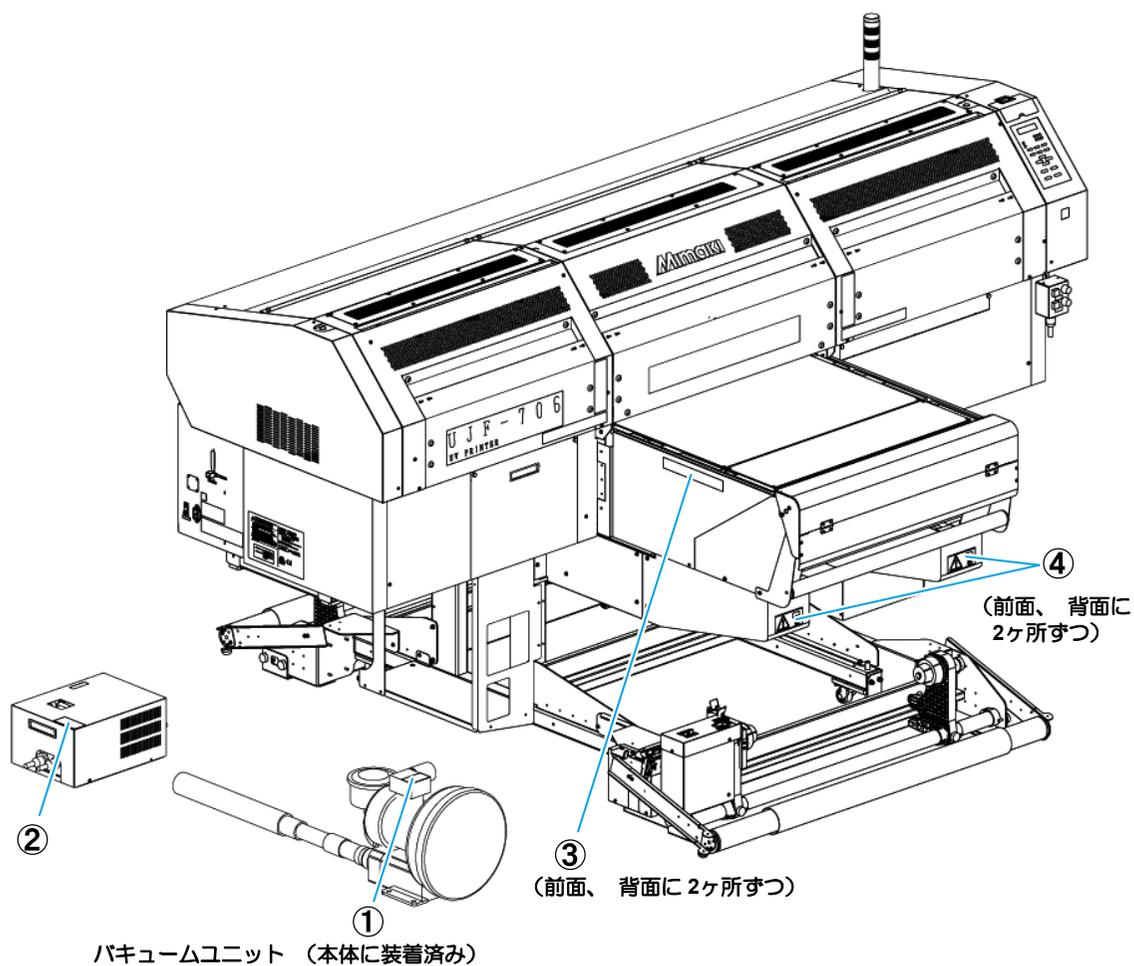
内 容	
	「警告」マークは、指示を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。必ずよくお読みになり、正しくお使いください。
	「注意」マークは、指示を無視して誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害の発生が想定される内容を示しています。
	「重要」マークは、本装置をお使いいただく上で、知っておいていただきたい内容が書かれています。操作の参考にしてください。
	「ヒント」マークは、知っておくと便利なことが書かれています。操作の参考にしてください。
	関連した内容の参照ページを示しています。
	△マークは、注意（危険・警告を含む）を促す内容があることを告げるものです。中に具体的な注意事項（左図の場合は感電注意）が描かれています。
	⊘記号は、禁止の行為であることを告げるものです。図の中や近傍に具体的な禁止内容（左図の場合は分解禁止）が描かれています。
	●記号は、行為を強制したり、指示する内容を告げるものです。図の中に具体的な指示内容（左図の場合は差し込みプラグをコンセントから抜いてください）が描かれています。

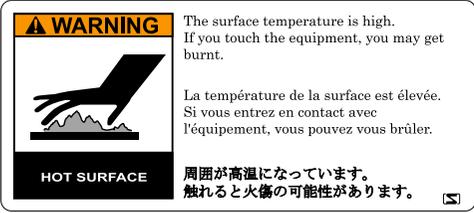
設置上のご注意

 注 意		
直射日光が当たる場所	水平でない場所	温度や湿度の変化が激しい場所
		 <ul style="list-style-type: none"> • 次の環境下でお使いください。 • 使用環境： 15 ~ 30 °C 35 ~ 65 % (Rh)
振動が発生する場所	エアコンなどの風が直接当たる場所	火を使う場所
		

警告ラベルについて

本装置には、下記の警告ラベルが貼ってあります。警告ラベルの内容を十分理解してください。なお、警告ラベルが汚れて読めなくなったり剥がれた場合は、新しい警告ラベルを販売店または弊社営業所にてお買い求めください。



	注文番号	ラベル
①	M907071	 <p>The surface temperature is high. If you touch the equipment, you may get burnt.</p> <p>La température de la surface est élevée. Si vous entrez en contact avec l'équipement, vous pouvez vous brûler.</p> <p>周囲が高温になっています。 触れると火傷の可能性があります。</p>
②	M907072	 <p>High voltage section in the equipment. If you touch the high voltage section, you may receive an electric shock.</p> <p>Section haute tension dans l'équipement. Si vous entrez en contact avec la section haute tension, vous pouvez recevoir un choc électrique.</p> <p>内部に高電圧部があります。高電圧部に触れると感電する可能性があります。</p>
③	M906115	 <p>警告 警告 WARNING WAARSCHUWING AVERTISSEMENT</p> <p>手指和身体请勿靠近运转部位、以免造成危险 危険な可動部 指や体を近づけないように HAZARDOUS MOVING PARTS 保持 fingers and other body parts away. GEFÄHRLICHE BEWEGLICHE TEILE Finger und andere Körperteile fernhalten. PIÈCES MOBILES DANGEREUSES Doigts et autres parties du corps sont hors de portée.</p>
④	M906222	

第1章 ご使用前に



この章では ...

本装置の各部の名称やはたらきを説明します。

各部の名称とはたらきについて	1-2
プリンタ前面（巻取装置）	1-2
プリンタ背面（操出装置）	1-3
操作スイッチ	1-4

各部の名称とはたらきについて

プリンタ前面（巻取装置）

パキュームユニットのコントローラ
プリンタの左右で操作できます。

折り返しローラ（3本）、ロール保護カバー

このローラを介して、メディアを巻取装置へセットします。
メディアにテンションをかけて、メディアを巻き取ります。

パキュームユニット

ロールメディアを吸着するための
ユニットです。（本体に装着されて
います）

ロールホルダ

ロールメディアを巻き
取ります。

テンションバー上昇防止ストッパ

テンションバーの上昇を止めます。

テンションバー待避ストッパ

テンションバーをロックします。

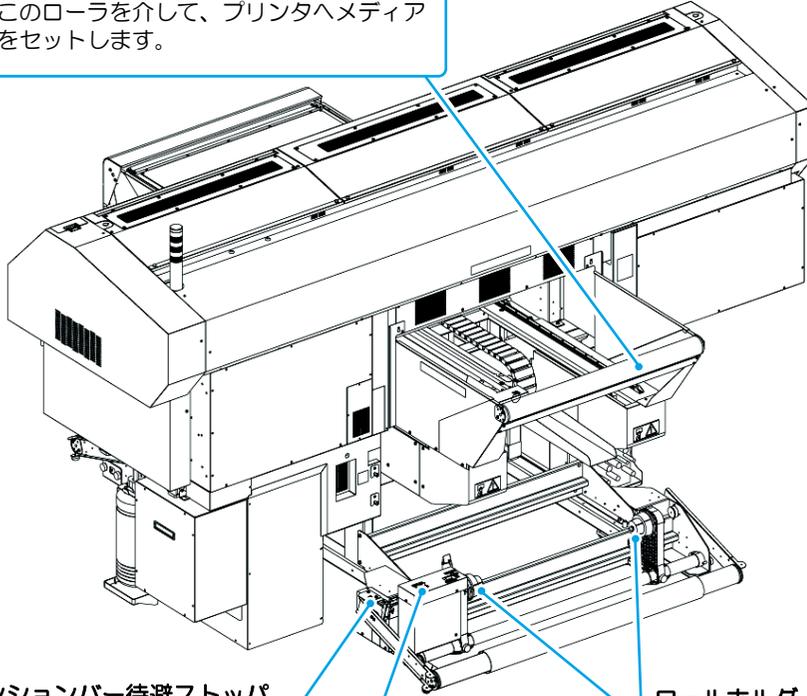
操作スイッチ部（P.1-4）

メディアのフィードやロールホルダ
のロックなどを行います。

プリンタ背面（操出装置）

折り返しローラ（1本）

このローラを介して、プリンタへメディアをセットします。



テンションバー待避ストッパ

テンションバーをロックします。

操作スイッチ部（ P.1-4）

メディアのフィードやロールホルダのロックなどを行います。

ロールホルダ

ロールメディアを巻き取ります。

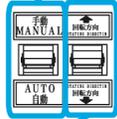
1

1 使用の前に

操作スイッチ

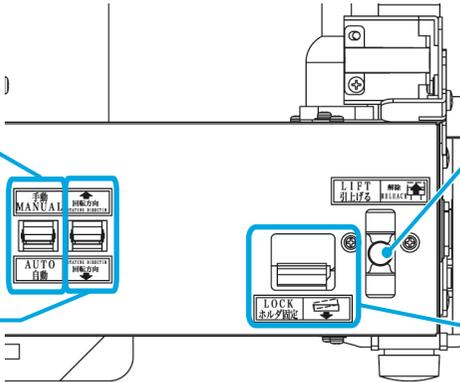
手動/自動スイッチ

メディアをセットするときは自動に、作図後にメディアをフィードする場合は手動に設定します。



回転方向スイッチ

通常（表面作図）は、巻取側を下に、繰出側を上セットします。
裏面作図の場合は逆にセットします。



回転ロックレバー

ロールホルダの回転をロック/解除します。
上に引き上げるとロックが解除されます。

ホルダ固定レバー

下にセットすると、ロールホルダの位置を固定します。

第2章 使い方



この章では ...

メディアのセットから作図までの操作方法と、上手にお使いいただくための注意について説明します。

メディアをセットする.....	2-2
作図前の操作	2-10
データの作図.....	2-11
メディアのフィードとカット（作図後）.....	2-12
上手にお使いいただくために.....	2-15
テーブルのお手入れ	2-15
ヘッドメンテナンス	2-15
各種メディア使用時の注意	2-15
テーブル上の吸着穴のふさぎ方	2-15
ウェイトの使い方	2-16
UV ランプの使い方	2-17
ミストファンの使い方	2-18
ロールメディア 1 プリントの使い方	2-19

メディアをセットする

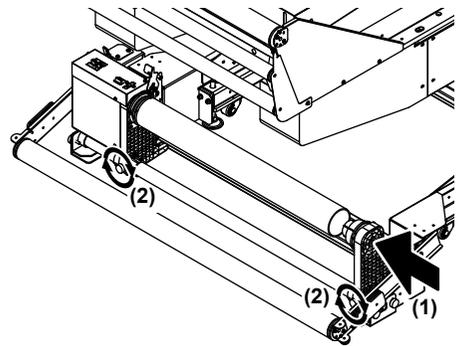
1

巻取装置に空の紙管をセットし、左右のロールホルダを取り付ける

- (1) 左のロールホルダに紙管をセットしてから、右のロールホルダを左にスライドさせて紙管にセットします。
- (2) 左右のネジを締めて固定します。



- ・紙管は、左右のロールホルダの根元までしっかりと挿入してください。緩んでいると、動作中空回りすることがあります。



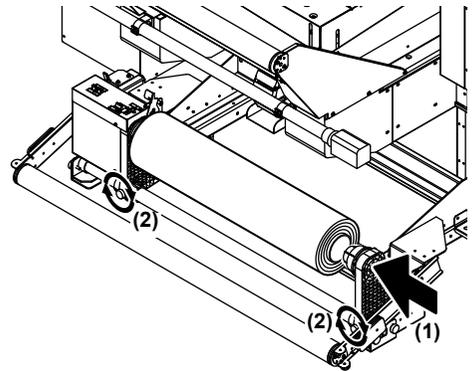
2

繰出装置にメディアをセットし、左右のロールホルダを取り付ける

- (1) 左のロールホルダにメディアをセットしてから、右のロールホルダを左にスライドさせてメディアにセットします。
- (2) 左右のネジを締めて固定します。



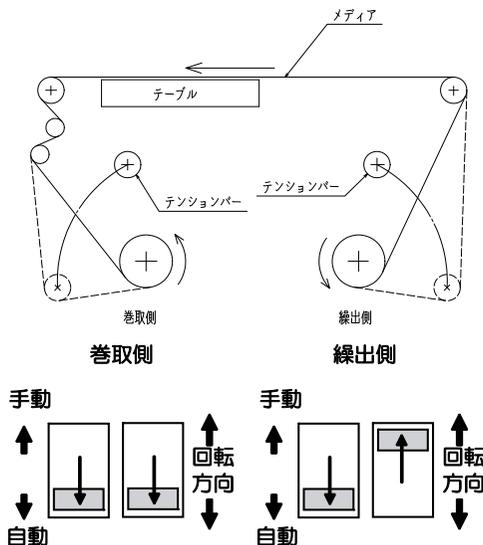
- ・メディアは、左右のロールホルダの根元までしっかりと挿入してください。緩んでいると、動作中空回りすることがあります。



- ・メディアは、「外巻き」(下図参照)でセットしてください。
- ・メディアは、テーブルの中心に来るようセットしてください。
- ・メディアは、表と裏のどちらに作図するかにより、セットの方向が変わります。

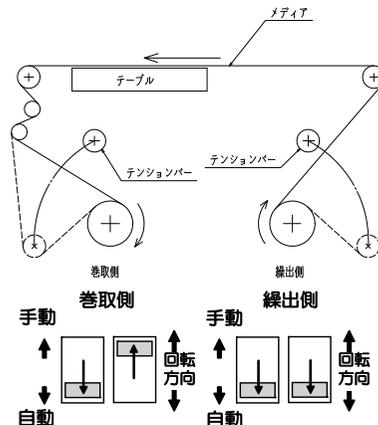
推奨

外巻き (表面作図)



参考

内巻き (裏面作図)

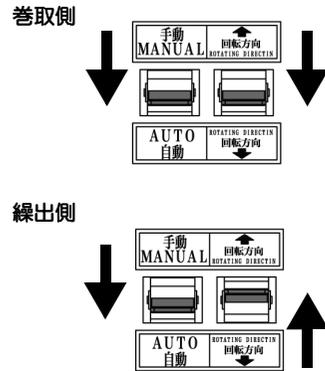


* お使いのメディアにより内巻きでセットする場合、繰出側にあるワンタイムロックは使用できません。(☞P.2-6)
簡易機能として、ロールホルダの回転ロックレバーとホルダ固定レバーを使用できます。(☞P.1-4)

3

操作スイッチを右図のようにセットする

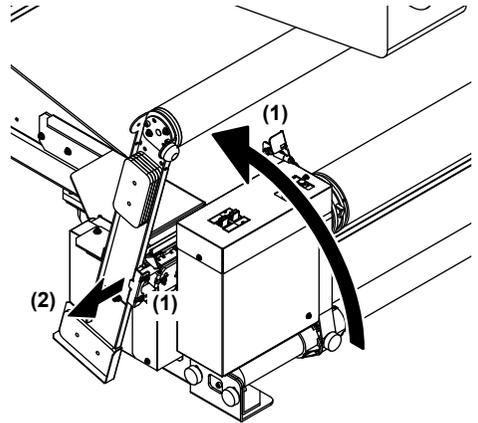
- 通常（表面作図）は、右図のようにセットします。
裏面作図の場合は、回転方向スイッチをそれぞれ逆の方へセットします。



4

（巻取側、繰出側両方）
待避ストッパを解除し、テンションバーを待避位置へ移動する

- (1) 待避ストッパを右に押し解除し、テンションバーを上を持ち上げます。
- (2) 待避ストッパを左に引いてロックし、テンションバーを固定します。



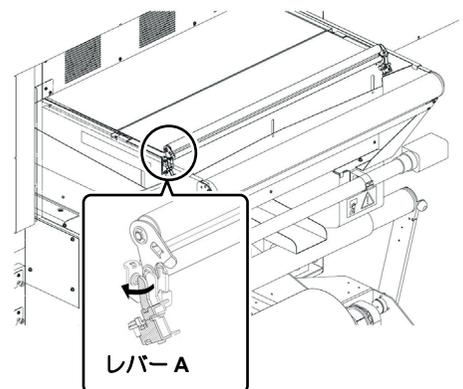
5

本体の操作パネルから、 キーでテーブルを後ろに移動させ、
 キーを押してオフにする

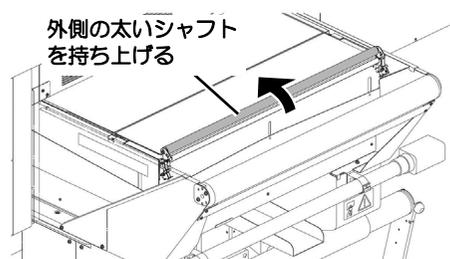
6

（繰出側）テーブル後端にある2本シャフトのうち、外側のシャフトを持ち上げる

- (1) シャフト両端にあるレバーAを外側に広げ、シャフトのロックを外す

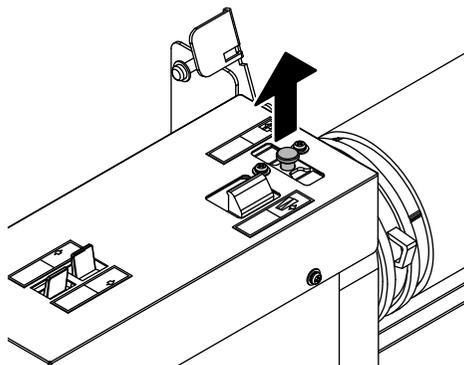


(2) シャフトを持ち上げる

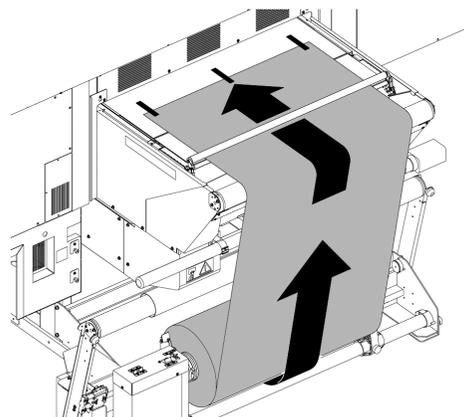


7 (繰出側) 操作スイッチの右にある回転ロックを引き上げる

- ロールホルダのロックが解除されます。

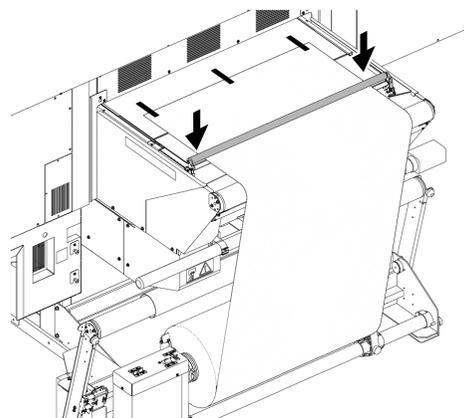


8 (繰出側) メディアを引き出し2本シャフトの間を通し、メディアの先端をテーブルの端へテープで固定する



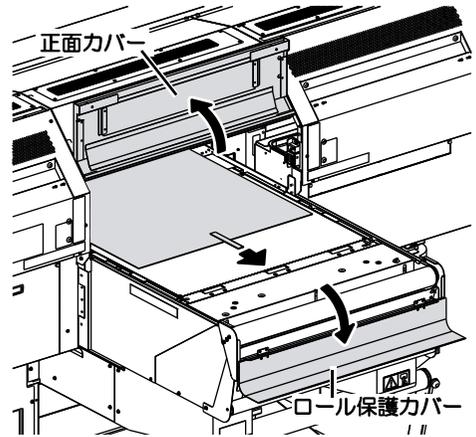
9 (繰出側) 手順6で持ち上げたシャフトを下ろし、メディアを挟み込む

- シャフトを下ろすと、シャフト左右のフックがカチッと入り込みます。フックが不十分な場合は、上から軽く押してください。



10 操作パネルの **END** キーでテーブルを前方に移動させる

- 移動後、巻取側のロール保護カバーと正面カバーを開けてください。

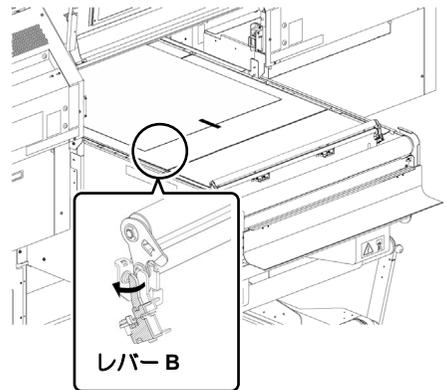


- 重量メディア（ターポリンやFF）をお使いの場合は、**END** キーを押す前に **VACUUM** キーを押してオンにすると、スムーズにメディアを前方へ送ることができます。

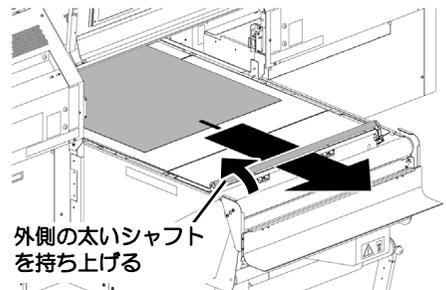
11 VACUUM がオンになっている場合は、操作パネルの **VACUUM** キーを押してオフにする

12 (巻取側) テーブル前端にある2本シャフトのうち外側のシャフトを持ち上げ、メディアを通す

- (1) シャフト両端にあるレバーBを外側に広げ、シャフトのロックを外す



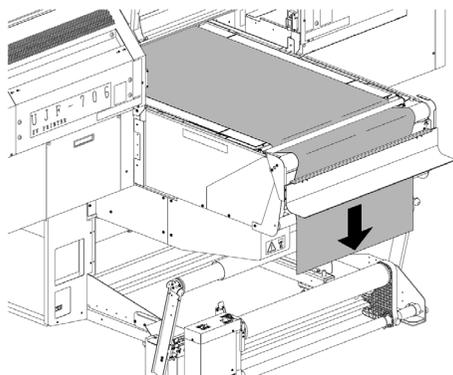
- (2) シャフトを持ち上げる
- (3) 図のように1本のシャフトの間にメディアを通し、先端を引き出す



13 (巻取側)メディア先端を巻取装置の紙管位置まで引き下ろす

- ローラーに沿って、図のようにメディアをセットします。

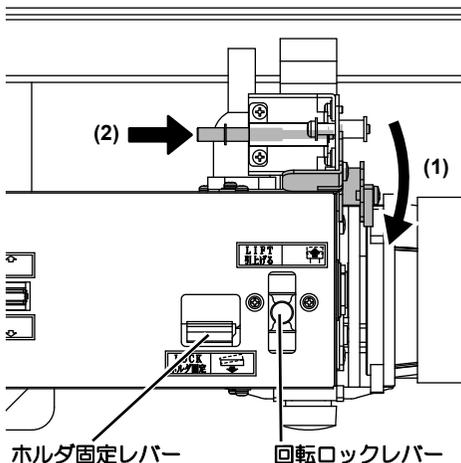
重要! • このとき、まだ紙管にメディアを貼らないでください。



14 (繰出側)ワンタイムロックをかける

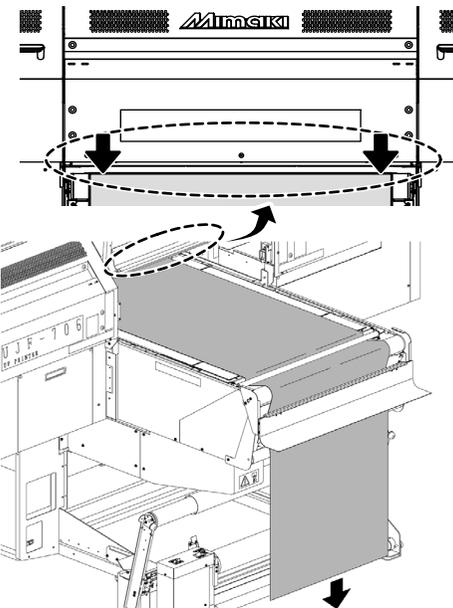
- (1) 操作スイッチの右奥にあるフックを手前に引きます。
- (2) 左奥のバーを右へ押し、フックを放すとロックされます。

重要! • メディアが「内巻き」(裏面作図)でセットされている場合、この機能は使えません。(P.2-2)
簡易機能として、ロールホルダの回転ロックレバーとホルダ固定レバーを使用できます。



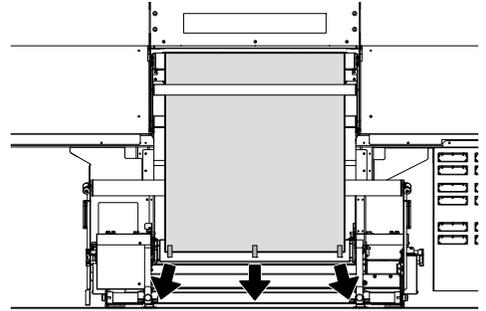
15 (巻取側)メディアをゆっくり引っ張りながら、メディアが左右均等になるよう調整する

- テーブル面を水平に見ながら、メディアの左右を引っ張り、左右のたるみ・張りが均等になるよう調整します。

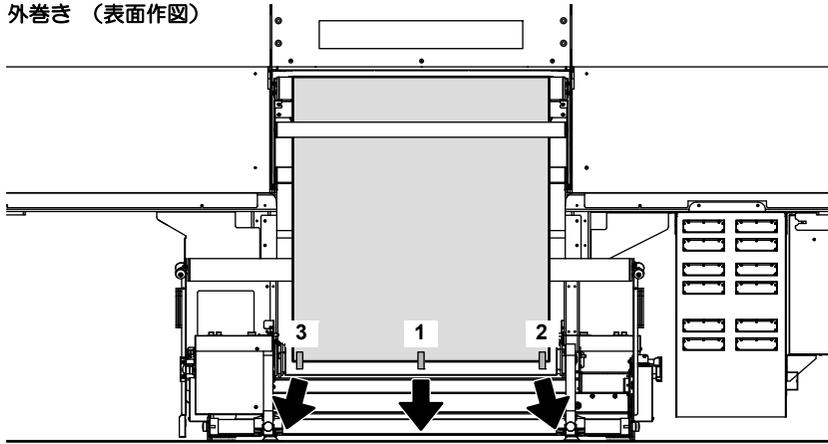


16 (巻取側) メディアの中心を紙管にテープで固定する

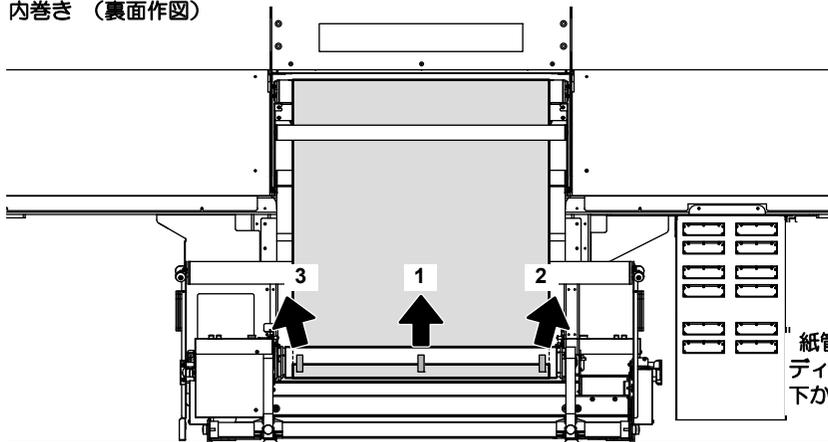
- (1) メディアがしわにならないよう、引っ張りながら中心をテープで固定します。
- (2) 続いて左右もテープで固定します。
- (3) メディアが真っすぐ固定されていることを確認します。



外巻き (表面作図)



内巻き (裏面作図)

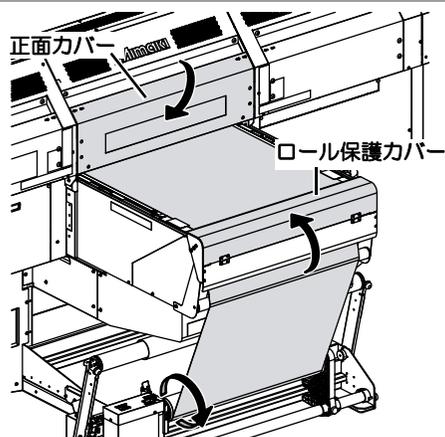


紙管の後ろからメディアをくぐらせ、
下から上に固定する

17

(巻取側) 手で紙管を回しながら、メディアを6周以上巻き、2本シャフトの外側のシャフトを下ろす

- このとき、繰出装置のワントタイムロックが解除されます (カチッと音がします)。
- メディアを巻いたら、ロール保護カバーと正面カバーを閉めます。
- シャフトを下ろすと、シャフト左右のフックがカチッと入り込みます。フックが不十分な場合は、上から軽く押してください。



18

操作パネルの **(VACUUM)** キーを押してオンにする

- メディアがテーブルに固定されます。

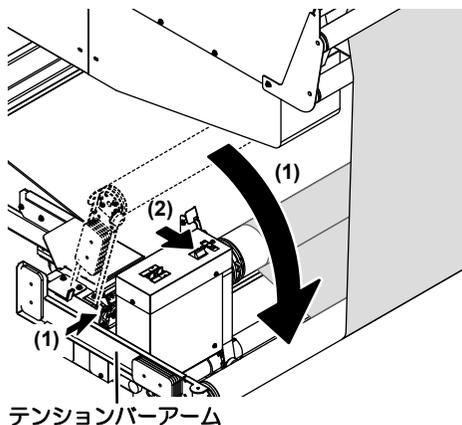
19

(巻取側) 待避ストッパを解除してテンションバーを下ろし、テンションバーアームが床と平行になったら、ロールホルダをロックする

- (1) 待避ストッパを右に押し解除し、テンションバーを下ろします。
- (2) テンションバーアームが床と平行になったら、ホルダ固定レバーを右図の方向にセットします。

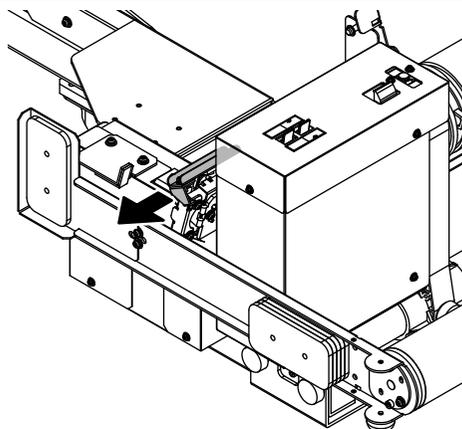
重要!

- ホルダ固定レバーがセットしにくい場合: ロールホルダの位置によってはレバーが正しくセットされないことがあります。その場合、ロールホルダを数ミリ回転させると、スムーズにセットできます。



20

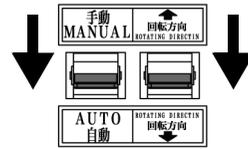
(巻取側) テンションバー上昇防止ストッパーを左へ引いてセットする



21 (巻取側) 操作スイッチの位置を確認する

- 手順 3 と同じ位置になっていることを確認します。
位置が異なる場合は、手順 3 と同じ位置にセットします。

巻取側

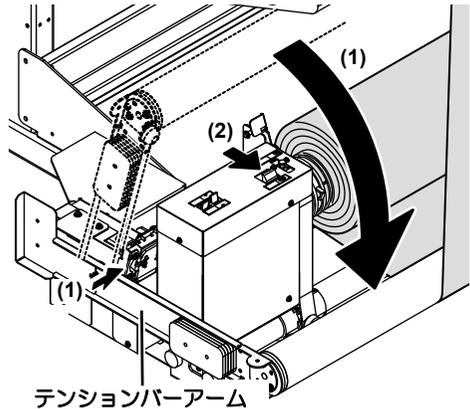


22 (繰出側) 待避ストップを解除してテンションバーを下ろし、テンションバーアームが床と平行になったら、ロールホルダをロックする

- 待避ストップを右に押し解除し、テンションバーを下ろします。
- テンションバーアームが床と平行になったら、ホルダ固定レバーを右図の方向にセットします。

重要!

- ホルダ固定レバーがセットしにくい場合：ロールホルダの位置によってはレバーが正しくセットされないことがあります。その場合、ロールホルダを数ミリ回転させると、スムーズにセットできます。



テンションバーアーム

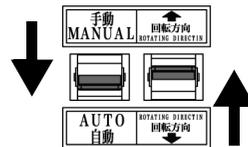
2

使
い
方

23 (繰出側) スイッチの位置を確認する

- 手順 3 と同じ位置になっていることを確認します。
位置が異なる場合は、手順 3 と同じ位置にセットします。

繰出側



24 操作パネルの (VACUUM) キーを押してオフにする

以上でメディアセットは完了です。

作図前の操作

データを作図する前に、以下を行ってください。
詳しくは、本体の取扱説明書をご覧ください。

- テスト作図でノズルの状態を確認する
透明なメディアなど、作図結果が見辛いメディアの場合は、メディアの下に紙などを挟んで、ノズルの状態を確認してください。
- 原点位置を設定する
セットしたメディア内に原点が来るよう、適宜調整しながら設定してください。

データの作図

データの作図方法は、UJF-706 本体のみの場合と同じです。本体の取扱説明書をご覧ください。

2

使い方

メディアのフィードとカット（作図後）

作図後、ロールメディアをカットしたい場合は、次の手順を行います。
プリンタ前面（巻取装置）から操作します。

1

VACUUM キーを押してオフにする

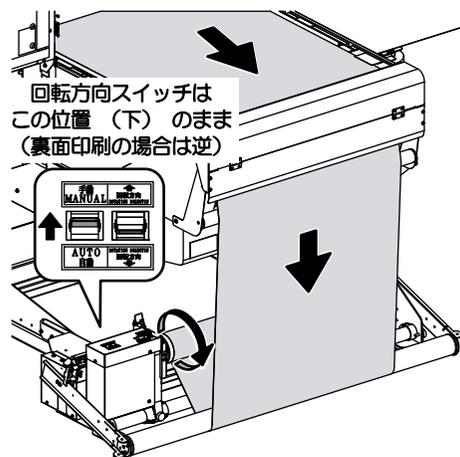


- バキュームをオフにすると、メディアがテーブル上で滑ることがあります。これは、繰出側と巻取側のメディアの巻径が異なるため、各テンションバーのバランスが崩れて発生するものです。一時的な現象のため、手を添えるなどして対処してください。

2

メディアを送る

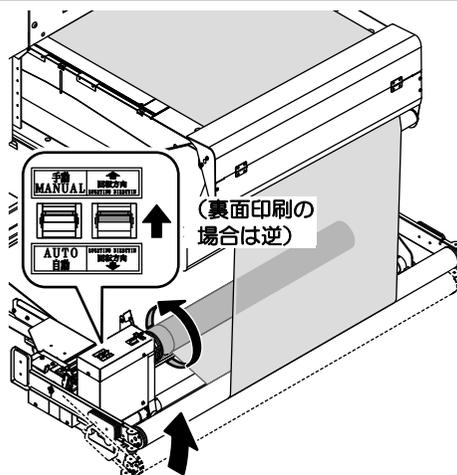
- 手動 / 自動スイッチを「手動」に切り替えます。メディアが手前にフィードされます。



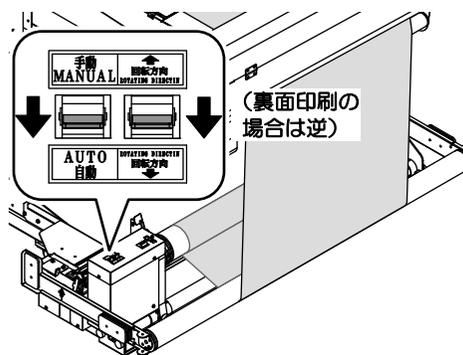
3

メディアのカットしたい位置がテーブルの外まで来たら、回転方向スイッチを切り替える

- 回転方向スイッチを逆方向に切り替えます。テンションバーアームが床と平行になるまで待ちます。



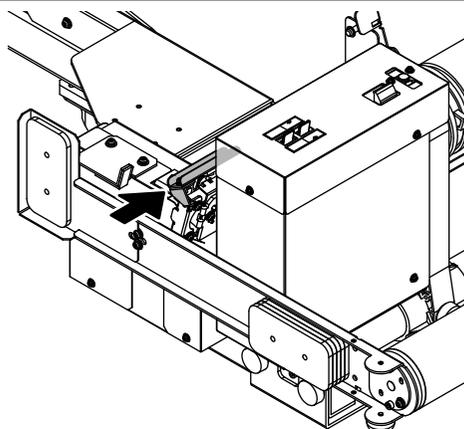
- 4** テンションバーアームが床と平行になったら、回転方向スイッチを元の位置に戻し、手動/自動スイッチを「自動」に戻す



- 5** **VACUUM** キーを押してオンにする

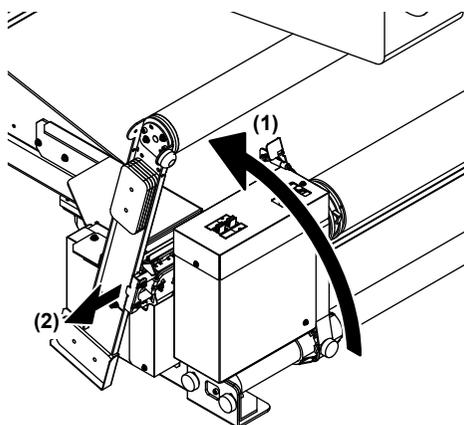
- 6** テンションバー上昇防止ストッパーを解除する

・ストッパーを内側へ押し解除します。



- 7** (巻取側) テンションバーを待避位置へ移動する

- (1) テンションバーを上を持ち上げます。
- (2) 待避ストッパを左に引いてロックし、テンションバーを固定します。



8

(繰出側) テンションバーを待避位置へ移動する

- 巻取側と同様にテンションバーを持ち上げて、待避ストッパを左に引いてロックし、テンションバーを固定します。

9

メディアをカットして、ロールメディアを紙管から取り外します。

上手にお使いいただくために

本装置を上手にお使いいただくためのポイントを説明します。

テーブルのお手入れ

テーブルの上はヘッドと同様に、常にきれいにしておいてください。
テープ粘着材の残りやインク滴がないよう、ご注意ください。

ヘッドメンテナンス

本体の取扱説明書に従って、メンテナンスを行ってください。

各種メディア使用時の注意

メディアは厚手（1mm）のものから薄手（25 μ m）のものまで幅広く使えますが、お使いのメディアにより以下の点にご注意ください。

- 厚み・弾力（コシ）のあるメディア
メディアが曲がってセットされているとシワが発生し、安定した作図ができない場合があります。
- 薄手のメディア
50 μ m 以下の場合、基本的に延伸処理したメディア（俗称 OPP）をお使いください。
非延伸処理メディア（CPP）の場合、インク硬化時の収縮の影響を大きく受けやすく、完成品の表面にシワを発生させてしまう場合があります。

テーブル上の吸着穴のふさぎ方

幅の狭いメディアをお使いの場合、テーブル上で、メディア幅の外にある吸着穴は不要になります。

この不要な吸着穴を薄手のフィルム等でふさぐと、吸着力の性能が上がり、安定した搬送・作図が行えます。

重要!

- 吸着穴をふさぐフィルム等に、めくれや膨らみがないようにしてください。
めくれや膨らみは、ヘッド移動中の衝突やジャムの原因になります。
- 厚手のフィルム等でふさがないようにしてください。
厚手の場合、メディアの厚みを検出するエリアセンサーが、自動的にメディア表面より高いところを最高位置と認識してしまうため、ヘッドギャップが広がり、印刷がぼやけるなどの影響を及ぼします。

2

使い
方

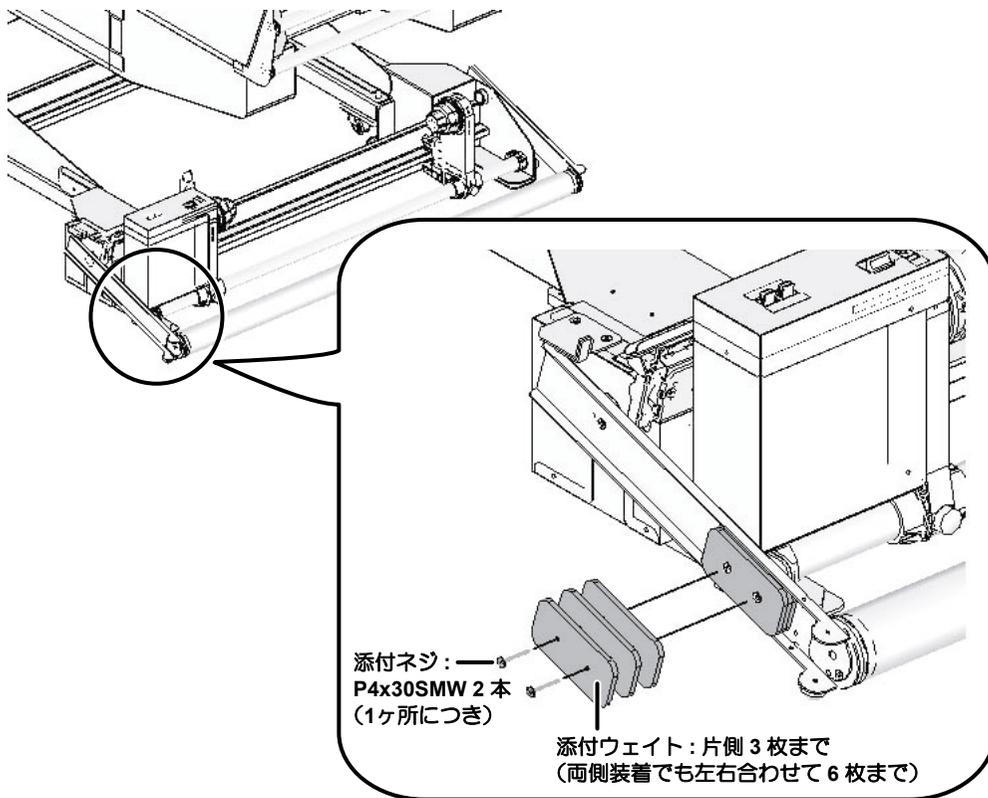
ウェイトの使い方

テンションバーに重り（ウェイト）を装着し、バーの重量を増加させることができます。通常は必要ありませんが、以下のようなときに装着すると、問題が改善される場合があります。

- メディアをまっすぐにセットしても、スキューが発生する。
- メディア表面のシワがどうしても取りきれない。

ウェイトはテンションバーアームの両側に装着できます（巻取側・繰出側とも）。

● ウェイトのセット方法



重要!

- 装着できるウェイトの数は、片側 3 枚までです。3 枚以上のウェイトを装着すると、巻取・繰出モータへ負担がかかり、動作に異常が発生する場合があります。

UV ランプの使い方

UJF-706 に搭載されているインク硬化のための UV ランプは、照射により発熱します。特に厚さ 50 μ m 以下のメディアをお使いの場合、発熱でフィルムが伸縮する場合があります。メディアのシワやゆがみ等が発生した場合は、以下の手順で光量を落として（50% ダウン）使用することをおすすめします。

なお、光量を落としても、インク硬化不足になることはありません（弊社純正インク使用時）。

1

ローカルモードで、**UV** キーを押す

<ローカル. 1 >

2

▲ **▼** を押して [コウリョウ セッテイ] を選び、**ENTER** キーを押すUV ランプ°
コウリョウ セッテイ <ent >

3

▲ **▼** を押して光量 [ツオイ] のレベルを「1」に設定し、**ENTER** キーを押すUV コウリョウ セッテイ
ツオイ :Lv. 1

- [16] → [1] に設定します。

4

▲ **▼** を押して光量 [ヒョウジュン] のレベルを「1」に設定し、**ENTER** キーを押すUV コウリョウ セッテイ
ヒョウジュン :Lv. 1

- [8] → [1] に設定します。

5

▲ **▼** を押して光量 [ヨワイ] のレベルが「1」になっていることを確認し、**ENTER** キーを押すUV コウリョウ セッテイ
ヨワイ :Lv. 1

- [1] でない場合は、[1] に設定してください。

6

END キーを押して終了する

- 作図時に RIP の設定を優先した場合は、RIP での光量設定が優先されますので、RIP での光量設定を 1 にするか、本体の設定を優先するよう設定し直してください。

2

使い方

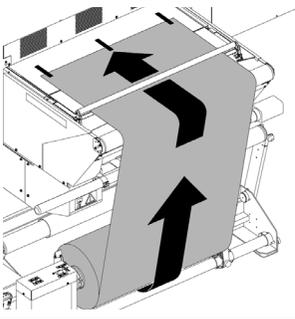
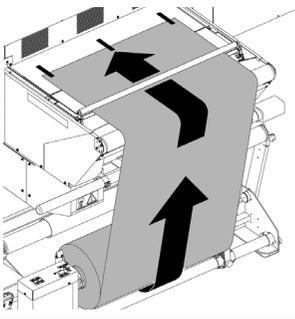
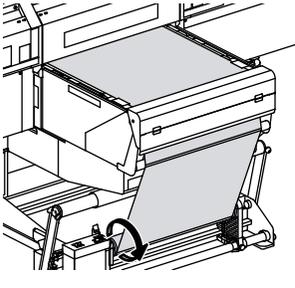
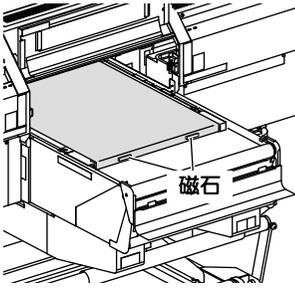
ミストファンの使い方

UJF-706 はミストファンを標準装備しています。操作パネルから、作図時に発生するミストの吸塵力を設定できますが、印刷媒体の形状（立体物）や印刷モード、インク濃度などにより変化しますので、状況に応じて最適な設定を選択してください。
設定方法は、本体の取扱説明書をご覧ください。

ロールメディア1プリントの使い方

「ロールメディア1プリント」では、連続作図をしないで1枚ずつ作図する場合に、作図のたびにロールメディアをセットし直す手間を省き、簡易的なメディアセット操作で作図を行うことができます。

通常作図とロールメディア1プリントの違い

● 通常作図の手順	● ロールメディア1プリントの手順
<p>(1) 繰出部にロールメディアをセットする (P.2-2「メディアをセットする」手順1～11参照)</p> 	<p>(1) 繰出部にロールメディアをセットする (P.2-2「メディアをセットする」手順1～11参照)</p> 
<p>(2) 巻取部にロールメディアをセットする (P.2-5「メディアをセットする」手順12～24参照)</p> 	<p>(2) ロールメディアを巻取装置にセットせず、磁石等を使用した「ロールメディア1プリントセット」を行う</p> 
<p>(3) 作図をする</p>	
<p>(4) 作図したメディアを裁断する</p>	
<p>(5) 次回作図するときは、再度、巻取部にロールメディアをセットする</p>	<p>(5) 次回作図するときは、再度、「ロールメディア1プリントセット」を行う</p>

● ロールメディア1プリントについて

「ロールメディア1プリント」とは、通常はメディア先端を巻取部へセットするのに対し、本方式では巻取部を使用せず磁石など（もしくは相当品）を使用して、メディア端部をテーブルユニットに固定することにより、作業を簡素化したプリント方法です。



- 但し、本方式は通常のロールメディアのセット方法とは異なるもので、弊社が正式に推奨しているメディアセット方法ではありません。
メディアセットの簡素化が可能となる反面、作業は人為的な部分が多く、またメディアの種類を変更した場合、メディアの厚みの変化などにより、テーブル面上でシワや膨らみが発生するなどの不具合を誘発する恐れがあります。
- 本方式で作図をしたときに不具合が発生する場合は、通常の巻取ユニットを使用したメディアセット方法に変更してください。

ロールメディア1プリントで作図を行う

1

マシン設定の[クリダシ & マキトリ]を“クリダシノミ”に設定する

- (1) ローカルモードで FUNCTION キーを押す
- (2) \uparrow \downarrow を押して[マシンセッテイ]を選び ENTER キーを押す
- (3) \uparrow \downarrow を押して[クリダシ & マキトリ]を選び ENTER キーを押す
- (4) \uparrow \downarrow を押して“クリダシノミ”を選び ENTER キーを押す
- (5) END キーを1回押す

2

セッテイ機能の[キュウチャク]を“ヨワイ”に設定する

- (1) \uparrow \downarrow を押して[セッテイ]を選び ENTER キーを押す
- (2) \uparrow \downarrow を押して使用するタイプ(1~4)を選び ENTER キーを押す
- (3) \uparrow \downarrow を押して[キュウチャク]を選び ENTER キーを押す
- (4) \uparrow \downarrow を押して“ヨワイ”を選び ENTER キーを押す
- (5) END キーを数回押して終了する

3

巻取側と繰出側のテンションバーを上げ、固定する

4

巻取側の上にあるロール保護カバーを上げる

5

\triangleleft を押し、テーブルを一番後ろ(本体奥)まで移動させる

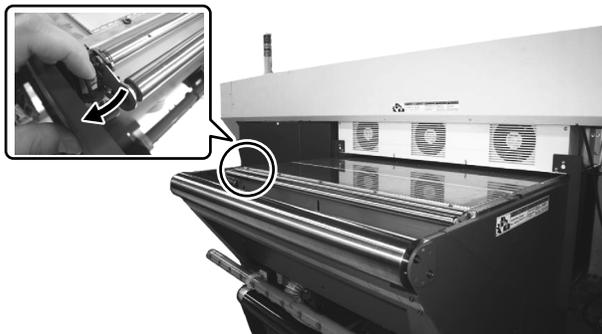
6

テーブル後端の2本シャフトの外側のシャフト(太い方)を左右のフックを解除しながら持ち上げる

- 2本シャフトの両側にあるレバーを外側に広げ、ロックを外します。

通常状態

シャフトを持ち上げた状態



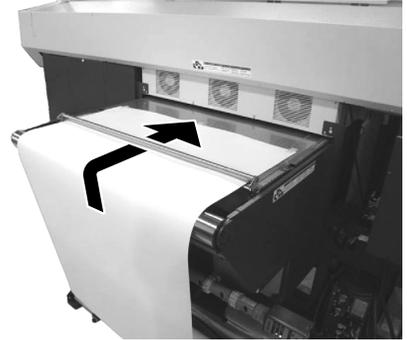
7

繰出側にロールメディアをセット (P.2-2「メディアをセットする」参照) し、回転ロック (P.2-4 手順7 参照) を引き上げてメディアを引き出す

8

テーブル先端にメディアを仮固定する

- メディア先端を折り返しローラの外側を経由してセットします。
- 手順5で持ち上げた2本シャフトの間にメディアを通し、テープ等で仮固定します。



9

手順6で持ち上げた2本シャフトを下ろし、左右のレバーのロックがかかったことを確認する

10

 を押し、テーブルを手前に移動する

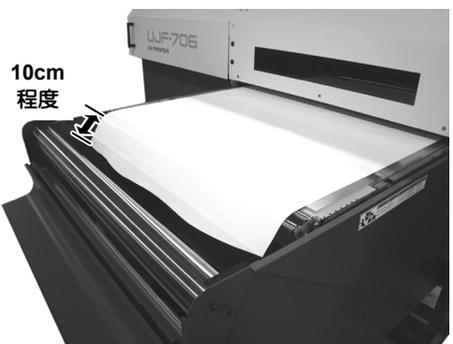
- テーブルは、最前端まで移動させる必要はありません。メディアを仮固定したテープと2本シャフトを操作できる程度まで手前に移動させてください。

11

仮固定したテープを外し、メディアの端面がテーブルと平行になるようにゆっくりと引き出す

12

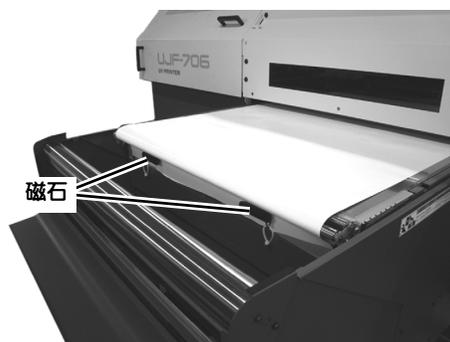
手順7で下ろした2本シャフトの外側のシャフト(太い方)の外側にメディアをかぶせ、10cm程度垂らす



2

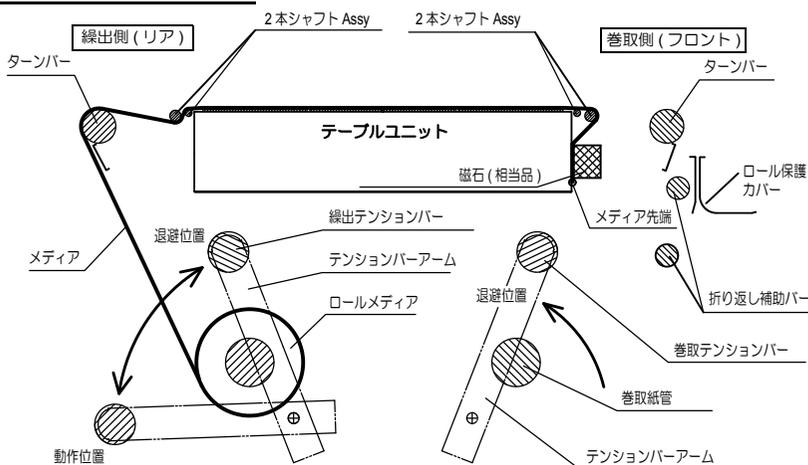
使い方

13 図のように磁石等でメディア先端を固定する



- メディア経路を断面図で説明します。メディアが正しくセットされているかご確認ください。

メディアセット状態 断面図



14 操作パネルの **VACUUM** キーを押して、メディアをテーブルに吸着させる



- 吸着したメディアにシワなどができている場合は、手などを使ってシワを伸ばしてください。
- バキュームユニットを接続している場合、バキュームユニットでメディアを吸着させることもできます。

15 **END** キーを押す

- テーブルが最前端まで戻ります。

16 繰出側に回り、テンションバーが床と平行になる位置まで下ろし、ロールホルダをロックする

- P.2-8 手順 19 を参照して作業してください。

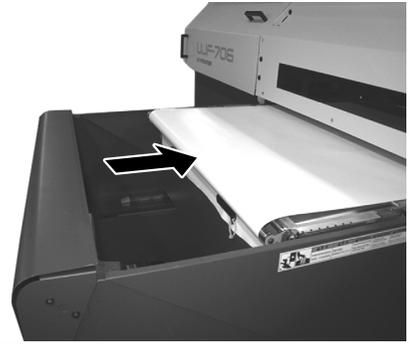
17 作図前の確認を行う

- (1) 繰出側ロールユニットの操作スイッチを設定する (P.2-3 手順 2 を参照)
- (2) テスト作図を行って、ノズルの状態を確認する (UJF-706 取扱説明書を参照)
- (3) できるだけメディア中央に作図できるように、RIP で調整する
- (4) メディア上に異物などがいないか確認する

18 作図を開始する

- ロールメディア 1 プリントの場合は、1 ページずつ作図を行ってください。

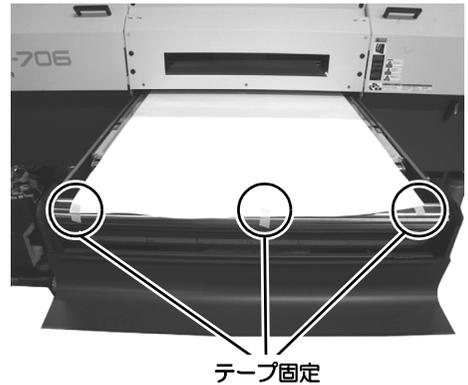
19 を押して、テーブルを後方へ移動させる



20 メディアを固定している磁石等を外し、 キーを押す

- テーブルが前方へ移動します。

21 テーブル手前にあるターンバーに、メディア先端をテープ固定する



22 ターンバーが回転しないように手で押さえながら、**VACUUM** キーを押してテーブル吸着をオフにする



- ・バキュームユニットでメディアを吸着させている場合、バキュームユニットを操作して、テーブル吸着をオフにしてください。



- ・メディアを吸着している状態では、うまく裁断ができません。必ず、テーブル吸着をオフにしてから、メディアを裁断してください。
- ・必ず、ターンバーを手でしっかりと押さえながらテーブル吸着をオフにしてください。テーブル吸着をオフにするとメディアを保持する力がなくなるため、繰出側のテンションバーが落下します。繰出側に人がいる場合などは、十分注意して作業してください。

23 手でターンバーを回転させ、メディアをローラに巻き付ける



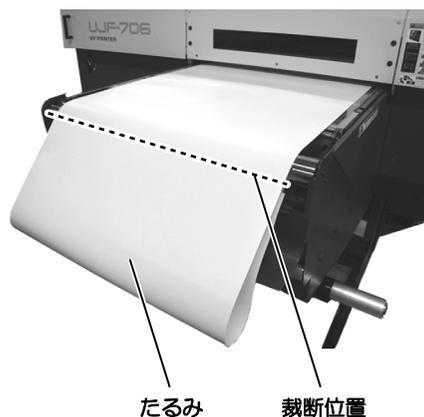
- ・メディアを巻き付けるときは、ゆっくりと行ってください。(1秒間で1/4周程度)
繰出側でメディアを繰り出す速度に対して、巻取側でメディアを引くスピードが速すぎると、繰出テンションバーが正しく動作しなくなります。

24 作図部分をローラで巻き取れる位置まで回転させてから**VACUUM** キーを押し、テーブル吸着をオンにする

- ・吸着により、メディアがテーブルに固定されたことを確認してから、次の作業を行ってください。

25 ターンバーを逆転させてたるみをもたせ、図の裁断位置でメディアを切り離す

- ・図中の裁断位置（ターンバーの手前側）でメディアを裁断することにより、その残りがちょうど2本シャフトの下までの長さになるため、メディアの固定がしやすくなります。
- ・ここまでで、ロールメディア1プリントによる作図が終了しました。次の作図を行う場合は、手順26からの操作をしてください。



26 を押して、テーブルを20cm程度後へ移動させる

27 手順13と同様にして、磁石等でメディア先端を固定する

- ・メディア表面にシワなどがある場合は、手でシワを伸ばしてから固定してください。

28 **END** キーを押して、テーブルを前方へ戻す

29 手順 18 からの操作をして、作図する

第3章 お手入れ



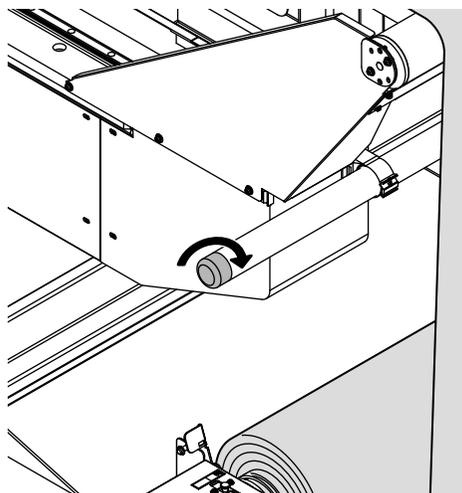
この章では ...

本装置のお手入れについて説明しています。

除電バー

重要! ・ 除電バーの右にある調整スイッチには触らないでください。

週に1回、繰出側にある除電バーのクリーニングを行ってください。
除電バーの左にあるダイヤルを、止まるまで手前に4、5回回すとクリーニングできます。
ダイヤルを回すと、バーの穴が閉じて、除電針がクリーニングされます。



第4章 困ったときは



この章では ...

故障かな?と思ったときの対処方法や、ディスプレイに表示するエラー番号の解消方法などを説明しています。

困ったときは.....	4-2
メディアにシワが発生する（印刷中）.....	4-2
メディアにシワが発生する（搬送中）.....	4-2
メディアがスキューする.....	4-4
メッセージを表示するトラブル.....	4-5
エラーメッセージ.....	4-5

メディアにシワが発生する（印刷中）

薄手のメディア（50 μ m）をお使いの場合、インク硬化時にメディアが収縮します（UV インクの特性）。収縮により、メディアによってはシワが発生し、印刷物に影響を及ぼす可能性があります。

シワを改善するため、以下の操作を適宜行ってください。

※ メディアが本体に水平にセットされていることを前提とします。

- ランプの光量を落とす（☞ P.2-17 「UV ランプの使い方」）
- テンションバーにウェイトを装着して、シワを軽減する（☞ P.2-16 「ウェイトの使い方」）
- 厚さ 50 μ m 以下の薄いメディアの場合、無延伸処理のメディアは使用しない



- 印刷データに対して右側または左側にシワが発生する、などの規則性がある場合は、データをメディアに対して反転したり、中央に寄せたりすると改善できる場合があります。

メディアにシワが発生する（搬送中）

メディアによっては、ロール加工される製造工程のばらつきにより、左右差（片側が長い、片側がゆがんでいる等）があります。

このようなメディアの場合、印刷前に本体にセットした時点で、テーブルに吸着させてもシワが発生することがあります。ほとんどの場合は、印刷前にシワ取りを行うと改善できますが、改善できない場合は以下の方法をお試しください。

※ メディアが本体に水平にセットされていることを前提とします。

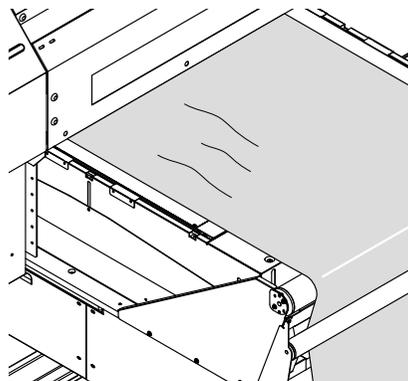
- テンションバーにウェイトを装着して、シワを軽減する（☞ P.2-16 「ウェイトの使い方」）
- テーブルの前後にあるローラーの取り付け位置を微調整して、メディアの張り具合を変えることにより、左右のゆがみ差を修正する
→以下の手順で調整してください。（添付プラスドライバー使用）



- もともとゆがみや伸縮のあるメディアの場合、長尺印刷でスキューを起こす可能性（搬送時の蛇行）がありますので、状態を見ながら作業してください。
- 以下の操作を行っても改善されない場合、メディア自体のゆがみが大きい可能性があります。無理に搬送すると、様々な不具合が発生する恐れがあるため、そのようなメディアは使用しないことをお勧めします。

1 テーブル上で、メディアのシワやゆがみの方向を確認する

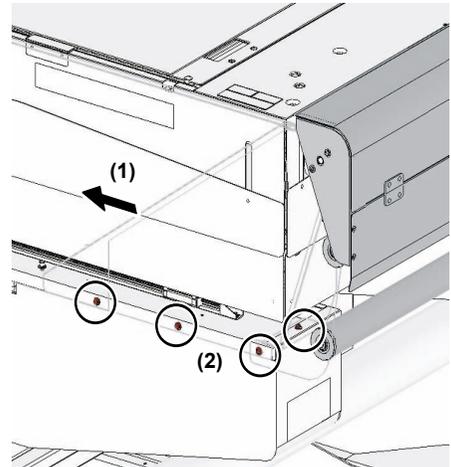
- テーブル上で、シワ等のゆがみがあるか、左右どちらに偏っているかを確認します。右の図は、左側にシワ・ゆがみが発生している場合です。



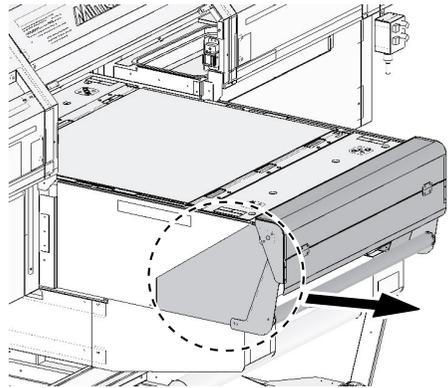
2

ゆがんでいるメディアの経路を長くして張りを出す

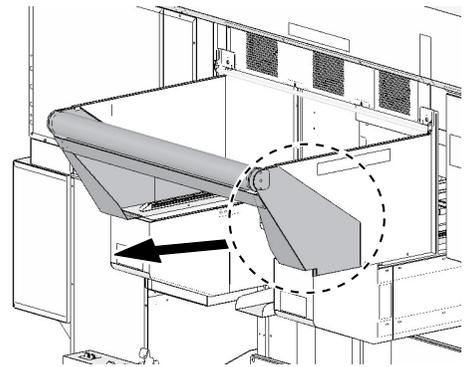
- (1) 操作パネルの   キーを押して、テーブルを最先端の位置から後方へ100mm程度移動させます。
- (2) ネジ(4ヶ所)を緩めます。



- (3) 右図にあるグレー部分のユニットで、ネジを緩めた側を前方へ移動させます(2~3mm程度移動できます)。
- (4) (2)で緩めたネジを再度締めます。
- (5) シワの状態を確認します。



- (6) 十分に改善されていない場合は、後ろ側も同様の作業を行います。



4

困ったときは

メディアがスキューする

長尺メディアをお使いのとき、メディアが蛇行してテーブル上で安定してまっすぐ送れない、または巻き取り時や搬送時にシワが発生して印刷物に影響が出る場合に、以下を確認してください。

- メディアのセット（マシン／テーブルに対して平行かどうか）を再度確認する
- テンションバーにウェイトを装着して、スキューを軽減させる（ P.2-16 「ウェイトの使い方」）
- それでも改善できない場合は、テーブルの前後にあるローラーの取り付け位置を微調整して、状態を確認する（ P.4-2 「メディアにシワが発生する（搬送中）」）



- ロールメディアのスキューは、厚みがありコシが強いものをお使いの場合に顕著に発生します。伸縮性のあるメディアは補正されますが、硬いメディアを曲がった状態で連続搬送すると蛇行の原因になります。
主な原因は、メディアセットの状態、またはメディア自体のゆがみです。

メッセージを表示するトラブル

何らかの異常が発生すると、ブザーが鳴りディスプレイにメッセージを表示します。メッセージの内容によって対処してください。

エラーメッセージ

エラーメッセージを表示する場合は、下の表に従って、エラーを取り除いてください。それでもメッセージを表示する場合は、販売店または弊社営業所にご連絡ください。

メッセージ	原因	対処方法
ERROR 64 TAKE-UP VOLTAGE	巻取モーター異常電圧を検出しました。	• ロールオフションの接続を確認後、一度電源をオフにして、しばらくたってから電源をオンにしてください。 • 再度表示する場合は、販売店または弊社営業所にサービスコールしてください。
ERROR 64 FEEDER VOLTAGE	繰出モーター異常電圧を検出しました。	
ERROR 65 マキトリ テンションバー	巻取ユニットテンションバー制御時に異常を検出しました。	• ロールメディアの装着状態と、テンションバーが正常な位置にあるか再度確認してください。
ERROR 66 クリタシ テンションバー	繰出ユニットテンションバー制御時に異常を検出しました。	
ERROR 67 TAKE-UP UNIT	巻取ユニットの異常を検出しました。	• ロールオフションの接続を確認後、一度電源をオフにして、しばらくたってから電源をオンにしてください。 • 再度表示する場合は、販売店または弊社営業所にサービスコールしてください。
ERROR 67 FEEDER UNIT	繰出ユニットの異常を検出しました。	

4

困ったときは

第5章 付録



この章では ...

本装置の仕様を記載しています。

仕様

項目	仕様	備考	
インク種類	SPC-0371, SPC-0516, F-200		
バキューム	強力バキューム装備 (本体の標準バキュームとは別)		
除電バー	メディア除電用ユニット装備		
最大作図範囲	標準スキャン時 700 mm (W) x 600 mm (D)		
使用可能メディア	最大幅	710 mm	
	最小幅	210 mm	
	厚さ	ロールユニット使用時は50 μ m~1.0 mm以内 (ロールユニット未使用時は最大 150 mm)	
	ロール外径	ϕ 250 mm 以下	
	ロール重量	25 kg 以下 (ロール両端保持にて自重たわみによる不良なき範囲)	
	取付可能紙管内径	2 インチ、3 インチ	
	作図面	内側 / 外側 (内外不問)	
	巻終り処理	紙管ヘテープ止めか弱接着	
	巻き取り最大外径	ϕ 300 mm 以下	
印刷マージン	ロール	左右 2 mm (デフォルト値)、 前 150 mm、後 0 mm	<ul style="list-style-type: none"> メディアの斜行除く。交差 \pm2 mm とする。 左右のマージンは変更可能。最小 5 mm
	リーフ	左右 25 mm (デフォルト値)、 前 15 mm、後 20 mm	
距離精度	絶対精度	\pm 0.3 mm または指定範囲の \pm 0.3%の大きい方	<ul style="list-style-type: none"> テストメディア: フォトペーパー光沢 用紙伸縮、セット初期蛇行は除く
	再現性	\pm 0.2 mm または指定範囲の \pm 0.1%の大きい方	
直角度	\pm 0.5 mm / 1000 mm		
メディアスキュー	5 mm 以下 / 10 m		
プリントギャップ	0.9 mm ~ 2.0 mm (メディア厚みはエリアセンサーによる自動認識、手動切替不可)		
メディアヒーター	なし		
メディア裁断	なし		
インターフェイス	USB2.0		
コマンド	MRL- III		
電源仕様	単相 AC200 ~ 240V \pm 10%、50 / 60Hz \pm 1Hz		
消費電力	4.0kVA 以下 (本体 0.5kVA、UV 装置 2.4kVA、プロア 0.7kVA)		
重量	545 kg 以下 (プリンタ 500kg + ロールユニット 45kg)		
設置環境	2250 mm 以下 (W) x 1570 mm 以下 (D) x 1370 mm 以下 (H)		
オプション装着時の外形	2520 mm (W) x 2070 mm (D) x 1550 mm (H)	<ul style="list-style-type: none"> 作業スペースとして、マシン周囲は前後 1m、左右 0.5m 程度を確保してください。 	

UJF-706 オプションロールユニット取扱説明書

2011 年 10 月

発行者 株式会社ミマキエンジニアリング
発行所 株式会社ミマキエンジニアリング
〒 389-0512
長野県東御市滋野乙 2182-3

